

入山以降、釣船寺に寄贈された方々

平成十八年	大鳥居 博様	本堂前線香たて
平成二十一年	朝日屋食堂様	香焚堂こうぶんどう
平成二十二年	石塚工務店様	水汲み堂

ありがとうございました 合掌

大鳥居博様寄贈の線香たて



朝日屋食堂様寄贈の香焚堂



石塚工務店様寄贈の水汲み堂



ほうれんそう報告連絡相談

坐禅会参加者募集！！

毎週日曜日の朝六時より開催中
 参加費無料
 動きやすい服装でおいで下さい。
 朝早くはと思う方のために、月に一度
 午前10時より日中の坐禅会も行って
 おりますので、開催日を電話で確認して下さい。
 029(840)7778

12月10日第一回壇信徒総会実施
 本堂建設についての意見交換会がされました。
 お疲れさまでした

1月14日総代会寺院見学
 新年の行事はじめとして、新建築の本堂を見学するため、銚田の吉祥寺、阿見町の西光寺の2ヶ寺に行ってきました。その後、総代様による新年会を行いました。

皆様の護持会費で掲示板ができあがりました



護持会費とは？

皆様をお守りするご本尊様、ご先祖様のために、釣船寺を末代まで維持することを目的にした会費です。

護持会費のご納付をお願いします。募金の折、郵便振込でも結構です。

釣船寺たより

年頭のご挨拶

平成二十二年の年頭に際して、一言挨拶を申し上げます。
 壇信徒の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えの事と拝察申し上げます。

さて、今年は、私が海中山 釣船寺住職として入山して五年目を迎える節目になります。このたび壇信徒の皆様、仏教はもとより、釣船寺を身近に感じていただきたく思い、釣船寺たよりを定期的に発信することとしました。是非ご愛読していただき、ご供養やご念仏のお手伝いになればと存じます。

お釈迦様ってどんな人？

お釈迦様は、今から約二千五百年前に、インド北の小さな国の釈迦族の王子としてお生まれになりました。恵まれた生活を送られたお釈迦様でしたが、「人はなぜ生

発行所 釣船寺
 〒300-0641
 茨城県稲敷市
 浮島3583-1
 029-840-7778



まれ、年老いていくのか。病気になるったり、いつかは死を迎える。人生には、なぜ悲しいことやつらいことが多いのか。何の心配もなく幸せに暮らせたいものか」と人生に悩み苦しむ、青年期に深く考えました。この問題を解くために、お釈迦様は二十九歳で城を出て、修行者となりました。六年間の修行ののち三十五歳でついに長年の疑問が解け、悟りを開いた人「佛陀」となられたのです。
 その後お釈迦様は、教えを伝える旅に出ました。これが仏教の始まりです。以後八十歳でお亡くなりになるまでの四十五年間、人々に教えを説き続けました。その教えは、今日まで受け継がれています。

彼岸会(春)「ついでの日」

今年もまもなく、春の仏教行事である「春の彼岸」を迎えます。昼と夜の長さがちょうど半分という「春分の日」を中心に、前後三日ずつ七日間の仏道修行の「行持」です。「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉がありますように、私たちの日常生活の節目と深いかわりを持つています。この仏教行事は、お釈迦様の縁起の説に示されるとおり、「人は一人では生きていくことはできない、多くの人や物に生かされ、自分の気づかぬ力に生かされて生きている」とのみ教えにしたがい、人間が人間らしく生きていくための道しるべとして、先人が私たちに伝えてくださった仏道修行の期間であります。
 道元禅師様は、「正法眼蔵・仏教」に、「修行の結果、煩惱が消滅するのではなく、修行にうちこむその時その場こそが、煩惱が消滅した世界なのである」とお示しになりました。つまりお彼岸とは、「迷い」のこちら岸から「悟り」のむこう岸にわたるための「到彼岸」、心と身の行いの修行

期間といえるのです。

彼岸供養お塔婆受付中

春彼岸(供養のお塔婆を2月いっぱい受け付けております。同封の受付表に、ご戒名または俗名、死亡年を記入し、先祖供養もされるのか否かを記入して、お申し込みください。電話、FAX、郵送、お持ちいただいても結構です。

次号予告

- ・四月八日のお釈迦様のお誕生のおはなし
- ・釣船寺の歴史

